



日本キリスト教団  
**三軒茶屋教会**  
http://sanchurch.jp/

# 三軒茶屋 教会通り

〒154-0024  
第48号 2014年2月発行 東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5  
TEL/FAX: 03-3418-4933  
発行: 三軒茶屋教会 広報部

教会が生き生きとなるためのヒントは、生き生きとしない教会を【想像する】と見えてくる。

新来会者を喜ばず、みな傍観者となつてゐる。「いい考えだ。でも誰かやってみてね」と他の人をいつもアテにしている。同窓会的で排他的な仲良しグループを作り上げ、その雰囲気を感じさせずに尊んでゐる。教会を生き生きとさせてほしいと青年に過大な期待をかけ、結果的に好ましくない負担を強いている。(ちなみに、青年が教会を生き生きとさせてくれるのではなく、真に生き生きとしてゐる教会にこそ、青年は集まつてくる)

陰口と告げ口の舞台となつてゐる。過去となつた出来事から生じた人間関係の確執に縛られてゐる。寛容や配慮のない、かたくなで独りよがりな主張や思い込みにこだわつてゐる。意見の違いが不必要な対立となつてゐて、誰が何を言つたかでギスギス、ピリピリしてゐる。ある時代の固有の思い出を伝統と公言して、教会の内外に生じてゐる直視すべき新しい変化を拒絶してゐる。誰かから狙ひ通りの称賛と評価を受けようと躍起になつてゐて、教会において献げることよりも、教会

## 生き生きとした教会とは

牧師 伊藤英志

で頂けるモノを探してゐる。教会が個人的な金銭や物品のやりとりの場となつてゐる。

主日礼拝が、趣味のお習い事のようになつてゐる。主日礼拝の時に、牧師も信徒も最も生き生きとしてゐない。礼拝が始まつても会堂内の別室では楽しいおしゃべりが続く。へりくだつた真剣な態度で礼拝に集まつてゐない。そのような教会に誰が再び行こうとするだろうか。

おうとしないうちに教会が意外に多いと各方面から指摘され続けている。誰もが行くこうとはしなくなる教会は、結局は人間の弱さと不確かさに支配されてゐる。生き生きとしてゐない教会とは、自分を含めた人間が中心となつてゐて、人間関係と、それに付随してゐる思い出を賛美してゐる。神不在となつた人間の群れは、不満と不安を積み増し加えてゐる。「今」を招いてしまつてゐるのだ。

だれでも長年慣れ親しんだ人間関係は居心地がよい。大切にしたい雰囲気

困気に水を差すように見えるよそ者には、戸惑いと嫌悪感で応えようとするだろう。しかし、それは世に属する人間の思いと行為である。

実に、十字架と復活の主キリストの福音とは、十字架の出来事をもたらし人間の弱さと不確かさからの確かな解き放ちを告げている。

この十字架の出来事をもたらし人間の現実を受け止めようとせず、誠実な悔い改めと罪の赦しの御業をないがしろにすると、外見は教会でも、中身は人間中心の人間賛美の群



れとなつてしまふ。「生き生き」とはほど遠い群れとなつてしまふのだ。

しかし、ここからの脱却は、難しいと決めつけてはいけない。すぐにできることがある。主日礼拝にできる限りの備えをなす、ただそれだけで何かが変わつていく。予告された聖書の箇所を事前によく読み、讃美歌にある祈りの言葉を自分なりに受け止めておく。献げたいことを事前に整理し用意しておく。

牧師も信徒もここだけをしっかりとっておけば、教会はおのずと生き生きとしてくる。新来会者の霊は、生き生きとされてゐる人々の姿勢と態度にふれて強く動かされていくのだ。